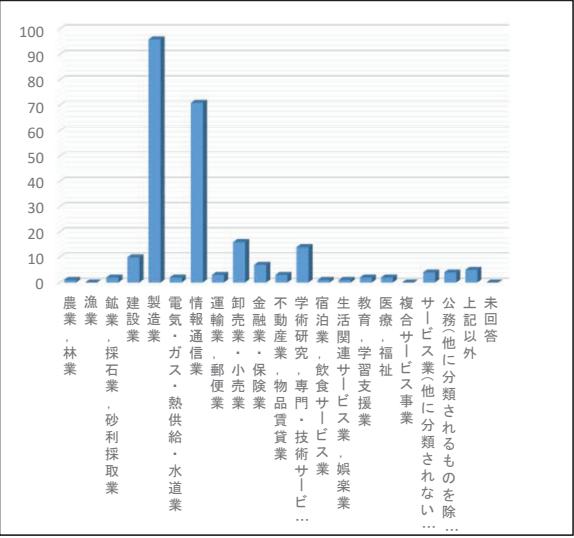


I 貴社の概要について教えてください。

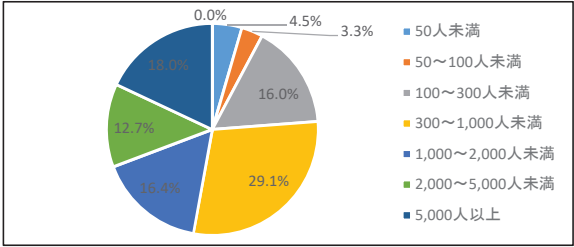
問1：貴社の属する業種について

選択肢		回答数	割合
1	農業、林業	1	0.4%
2	漁業	0	0.0%
3	鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.8%
4	建設業	10	4.1%
5	製造業	96	39.3%
6	電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.8%
7	情報通信業	71	29.1%
8	運輸業、郵便業	3	1.2%
9	卸売業・小売業	16	6.6%
10	金融業・保険業	7	2.9%
11	不動産業、物品賃貸業	3	1.2%
12	学術研究、専門・技術サービス業	14	5.7%
13	宿泊業、飲食サービス業	1	0.4%
14	生活関連サービス業、娯楽業	1	0.4%
15	教育、学習支援業	2	0.8%
16	医療、福祉	2	0.8%
17	複合サービス事業	0	0.0%
18	サービス業（他に分類されないもの）	4	1.6%
19	公務（他に分類されるものを除く）	4	1.6%
20	上記以外	5	2.0%
—	未回答	0	0.0%
合 計		244	100.0%



問2：貴社の従業員について

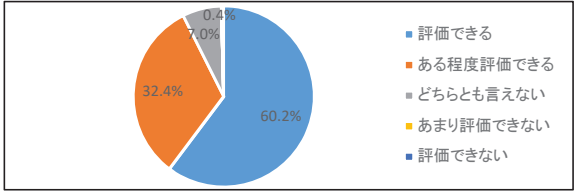
選択肢		回答数	割合
1	50人未満	11	4.5%
2	50～100人未満	8	3.3%
3	100～300人未満	39	16.0%
4	300～1,000人未満	71	29.1%
5	1,000～2,000人未満	40	16.4%
6	2,000～5,000人未満	31	12.7%
7	5,000人以上	44	18.0%
—	未回答	0	0.0%
合 計		244	100.0%



II 本学大学院の改革構想についてご意見をお伺いします。

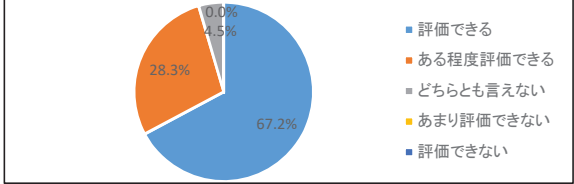
問3：高度化・多様化する社会や学生のニーズに的確に対応するために、幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムを担当することができる柔軟な教育システムへの移行

選択肢		回答数	割合
1	評価できる	147	60.2%
2	ある程度評価できる	79	32.4%
3	どちらとも言えない	17	7.0%
4	あまり評価できない	0	0.0%
5	評価できない	0	0.0%
—	未回答	1	0.4%
合 計		244	100.0%



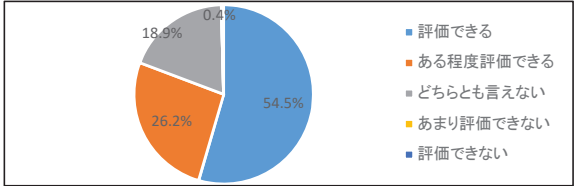
問4：本学大学院生が共通に修得すべき汎用能力的の明確化について
この構想についてどのような印象をお持ちになりましたか

選択肢		回答数	割合
1	評価できる	164	67.2%
2	ある程度評価できる	69	28.3%
3	どちらとも言えない	11	4.5%
4	あまり評価できない	0	0.0%
5	評価できない	0	0.0%
—	未回答	0	0.0%
合 計		244	100.0%



問5：研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成について
【問5-1】
この構想についてどのような印象をお持ちになりましたか

選択肢		回答数	割合
1	評価できる	133	54.5%
2	ある程度評価できる	64	26.2%
3	どちらとも言えない	46	18.9%
4	あまり評価できない	0	0.0%
5	評価できない	0	0.0%
—	未回答	1	0.4%
合 計		244	100.0%



【問5-2】

問5-1で「1」「2」と回答された方にお伺いします。上記のような研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の要請について、今後そのような人材養成が期待される分野がありましたら、具体的に聞かせてください。

- ・農業の諸問題に対応できる人材
- ・人類未到の領域、革新的な技術開発を企業という枠組みで推進しようとする際に幅広い知見と総合的応用力を兼ね備えた人材が必要である為
- ・必ずしも自分の専門が生かし切れる訳ではない弊社の職場において、コミュニケーションやマネジメントを通して専門を超えて仕事を獲得していける人材の養成。
- ・顧客の顕在化していない課題にいち早く気づくことが求められるケースが増えてくるため、ビジネススキルとアカデミックな知見が融合していく事が求められるため。
- ・未知の問題に対し、自力で解決策を考え、実行する人材の養成（受身ではなく能動的に問題に立ち向かう姿勢）
- ・弊社が製造、販売している商材に関して、その時々々の社会情勢、将来動向を踏まえたニーズの察知、およびそれに付帯する各業務（事業推進、研究技術開発等）をこれまで以上に進めていく業務（政治、科学、地政学、法律、宗教などの総合的、かつ有機的結合による新たなアイデアの創出。）
- ・問題解決能力が必要と感じます。社会に出ると正しい答えがある場合もあればない場合もある。自分が発揮できる範囲でよりベストな方法や答えを導く能力が求められます。
- ・社会で実際に起きている課題について、「仮説」を立て現場目線で検証し、社会（会社）問題にどのようにアプローチするか。⇒「考えぬく力」、「学問を越えた学び」が就職後のご自身に役立ち会社（社会）へ貢献できる
- ・「ビジネスの変革・・・」という面では、どのような分野においても必要であると思料致します。
- ・AI、ディープラーニング等が当社に限らず様々な企業で重要になるため、そうしたデータを活用できる人材を輩出されることにとても魅力を感じます。こと研究能力においては、ますますビジネスの実践の場で必要になってきており、営業でも、またデータサイエンティストやディレクターでもいづれもそうした能力と現場力を併せ持つ方に活躍されていくものと思います。
- ・すべての企業並びにすべての職種において必要になるものです。相手が望む以上の成果を出すには必要不可欠ですが中々大学に在籍してる段階からそこが重要なんだと考え意識を持って過ごす学生さんは多くない印象です。
- ・様々な法令の知識や事例を統合して不動産を含む資産の型成を提案できる人材
- ・高性能な装置を開発する際に、環境配慮という視点を持ち開発に取り組める人材の養成
- ・現場力を備え実践し今、企業がトータル人材不足、技術者不足を解消できる仕組みを研究し、実用出来る形を示せる学院生を育ててもらいたい。
- ・ビジネスの変革や技術の複雑化への対応は農業界の課題でもあります。いかに分かりやすく人に伝えることができるかというスキルがあると良いかと思います。
- ・現場で起こりうる様々な課題に臨機応変に対応できる人材の養成
- ・分野に限らず、デザイン思考的な発想がこれからの時代は求められると思います。変化に対応し、新しい価値を現場の経験から主客を使い分け知を創造して下さることを期待します
- ・机上だけでなく経験フィールドワークを行った人材
- ・ビッグデータに基づくディープラーニング、機械学習といった最新学習技術に関する専門知識を持ち、これらの実用化に貢献できる人材の養成
- ・労働人口の減少に伴う省力化（AI、IOT）技術の導入作業に対応できる人材
- ・AI、環境、防災といったせまい範囲では対応できない人材の養成
- ・水道事業における老朽化、耐震化問題に対して的確な方策を講ずることができる人材
- ・化学素材の開発
- ・テクノロジー領域における専門的なスキルを有した上で、新たな金融サービスを創造、社会実装に向けて社内外の合意形成、関係者を巻き込み施策を推進できるリーダーシップ、コミュニケーション能力を有している人材
- ・1.人工知能 2.ブロックチェーン技術
- ・日本の地域課題の解決（地域創生）
- ・特に鉄鋼分野の生産現場では理論ではなく、実設備や現象への現場力が必要。不可欠な技術力となるため。ただし、ある程度の一定数は研究も必要だと考える。
- ・経営企画における現場実態把握とリーディング
- ・初めて直面する問題に対して、これまで得た知識や経験を活かして柔軟に対応できる。
- ・既存の方法にとらわれない解決策を提示できる人材の養成
- ・どのような業種/職種であれ、終身雇用が当たり前ではないこれからの社会で生き抜くためには、何においても自ら考え、主体的に問題を解決していける能力が必要不可欠だと思います。大学の学習においても、大学に「与えられる」ことが当たり前にならないよう、学生の自主性や主体性を引き出すような学びを期待します。
- ・化学メーカーの一社としてコメントさせていただきますが、学生の志望職種に対する考えが偏っていると感じます。企業においてはプラントエンジニアを志望する学生も必要としていますが、化学工などを学んできても研究職を志望するなど、必ずしも必要な人材確保がスムーズに出来ているわけではなりません。社会や企業がどのような人材を求めているのか、学校教育の中でも社会や企業の実態を社会勉強として学んでいただく機会があればよいのではないかと考えます。前置きが長くなりましたが、実態を見ることにより学生のうちから実社会を意識した勉強を行うようになり、自ずと「現場力」のベースを形成していけるのではないのでしょうか。
- ・長期的な視点で課題に取り組める人材の養成（海外含め）
- ・現場での後工程を考慮して行うべき開発や試作業務
- ・医療や介護の分野。
- ・メカ、ハード、ソフトウェアすべてを理解して、市場の要望を実現した製品または新たな市場を生み出す製品を作り上げる能力
- ・研究・開発品の事業化過程に対して、研究規模から事業規模へのスムーズな移行に寄与できる人材
- ・学校現場での活躍を期待します。現状の学校教育では、教師が教科力・指導力・対応力等を全てを兼ね備えなければなりませんが、分業も可能と考えられますし、ワンプレイヤーとして能力を発揮していればよいという時代でもありません。そこで「研究能力」と「現場力」を理解した方に、教育委員会と学校の間に、管理職と末端教師の間に、入って調整役となるという仕事を創出することができれば、規模・持続性ともに将来性のある分野になるかと思います。
- ・急速に変化する世の中を先読みし、ビジネスをリードできる人材
- ・顧客の潜在ニーズを汲み取り、企業のリソースを用いたソリューション提供ができる人材

- ・公的研究機関における知財管理、技術移転を担当するリエゾンスタッフ又は国の政策立案に参画できる科学技術行政スタッフ
- ・技術的ニーズやお客様ニーズを踏まえ、お客様のQOLを向上させるサービスの創造と実行ができる人材の育成。
- ・行政が進めているセルフメディケーションに対する課題に対してドラッグストアが担う役割を業界全体で進めていける人材の養成。
- ・今後成長スピードが更に加速されると考えられているIT業界において、既出の技術や知識だけではなく現在世界で起こっている事象と結び付けて考察・行動できる人材の養成
- ・実際に現場で起きている事象を、ケーススタディで使えるようにデータ化するような分野であれば、汎用性があると思います。
- ・激変する情勢の中、専門能力をいかにビジネスの現場に応用して新しい製品、サービスにつなげることができるか、という起業家のような人材が今求められているから。
- ・組織が抱えている制度上の課題に対して、様々なデータや統計的手法を用いて、納得性のある対応方法を提供できる人材。
- ・自ら課題を見つけ出し、課題に向けて貢献できる人材の養成・自身の研究内容や得意科目についてしっかりと説明（相手が理解できる）コミュニケーション能力をもった人材の養成
- ・店舗経営を多店舗でチェーン展開していますので、リーダーシップやマネジメント能力が活かせる場面は多いです。また自社物流があるため、現在、同業他社に商品供給を実施しています。
 - ・今後は、人事サービス等も他社へ販売することも視野に入れています。そういった、新しいビジネスモデルを考える場面も増えると思っています。
- ・日々変化をしている業界（自動車）の中でアイデアを具体的な製品に繋げることが出来る
- ・産学官共同のグローバルな（日本をアピールできる）研究テーマをリードしていける人材
- ・広い視野で社内の経営課題や改善案を考えることのできる、将来の管理職候補の養成が課題となっております。経営学学位プログラムにおいて、そのような人材の養成を期待しております。
- ・現在職場が抱えている問題に対して様々な視点から改善できる、よりよくできる点を発見し自分から発信していける人材
- ・現代ニーズの変化は速く、今後どのようなビジネスが成り立つかは、判断が難しい。そこで、下記人材の育成は企業にとって、期待される能力をもっている人材だと言える。
- ・ビジネスの変革、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応できる人材の養成
- ・新たなサービス方法を創造・実践し、結果を科学的に検証できる人材の養成
- ・RPAを活用できる人材
- ・新たな仕組みを構築できる人材
- ・新しいビジネスモデルを提案できる人材（販売形態・融合）
- ・物流システムの自動化を遂行できる人材
- ・様々な顧客情報を一元管理し分析できる人材
- ・多様な言語を習得し、それぞれの文化を把握している人材
- ・国際的な視野を持ちつつも、日本の産業を向上させる構想を持てる人材の養成。大学という学びの場を活かし、特定の産業分野にこだわらず、横断的な視野を持つことが、今後の日本産業に必要な能力だと感じています。それが何に活用できるのか、を考えたり、未経験の技術に対して抵抗なく吸収できることが求められる
- ・新たな技術・サービスを創造し自ら進んで貢献できる人材の養成
- ・医用機器設計職：臨床検査技師の資格を持った機構系設計者など
- ・新規事業を立案する分野です。将来が不透明な世の中で、様々な懸案事項を「現場力」を活かして、社会に貢献できる人材育成が期待出来るからです。
- ・生産現場で発生した課題を設備改善やプロセス改善に繋がられる人材・営業現場でお客様の困りごとをソリューションビジネスや商品改善に繋がられる人材
- ・IT技術を活用した新たなビジネスソリューションを創造できる人材の養成
- ・地方の活性化（人口減少が予想される地方の活性化）その地域で生涯働き、生活（暮らしていける）して（安心して）いけるようなコミュニケーションづくり
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）領域、機械学習の知識を備えた人材を輩出できると、最先端IT企業のニーズに合うと思います。
- ・既存の顧客データを活用し、現行サービスの改善・新サービスを創造できる人材の養成。会社の枠組みを超えたイノベティブなサービスを創造・実践できる広い視野をもった人材の養成。
- ・起こりうる問題に対して、未経験ながらも柔軟に対応できる、深掘りして取り組むことができるような人材を期待。・IT業界においては、例えば、新しいテクノロジーが出た際に、それが何に活用できるのか、を考えたり、未経験の技術に対して抵抗なく吸収できることが求められる
- ・社会人はフィールドの中で自ら課題を設定し周りの人々を巻き込んで解決していく能力が重要で、大学教育において社会に視野をむけた実践的な経験が望まれる。
- ・今後社会全体、とりわけ弊社のような製造業は、イノベーションが求められます。高い倫理観をベースに、知の探索と知の深化のバランスの取れた人材、また、社会の抱える課題に対して、マーケット情報などその状況を的確に捉え、果敢に挑戦できる人材、そのうえで、新しいものと創出し、世界のルールを創り出せるような高度人材の輩出を期待します。
- ・社会的な変化の流れが速くなっている中、様々な情報をキャッチアップし、まだ見ぬ潜在的な課題を発見し、新たなサービスを生み出していける人材の養成。
- ・あるべき姿に目を向け、具体的な目標を立ててやり抜く力のある人材・周囲と真摯に向き合い、思いを一つにし、変革していく力のある人
- ・社会インフラにおける各種設備（発電所内、分散型電源、上下水道プラントの電気設備etc）の据付・試運転・保守サービス。
- ・人と環境双方を考慮した課題を解決する人材の育成
- ・ITの技術者の不足という点で今後技術がさらに進化していくほど私たちの未知な世界が広がるので、柔軟な考えを持った方が社会貢献のために今後活躍していくのではないかと思います。
- ・この先成長する半導体ビジネスにおいて新たな視点でのアイデアを持ち変革の起こせる人材の養成
- ・弊社の例で申しますと、電力・ガスの供給など既存の事業領域だけでなく、既存事業領域で培った現場力、技術力を新規事業領域へ応用することが必要と考えております。

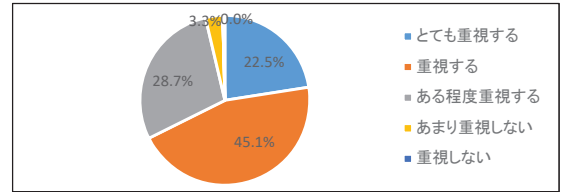
例えば、火力発電所の運用ノウハウ、設備管理ノウハウ×AI,IoT＝新規ビジネスの開発

問6：大学院修了者が身につけるべき知識・能力について

<修士>

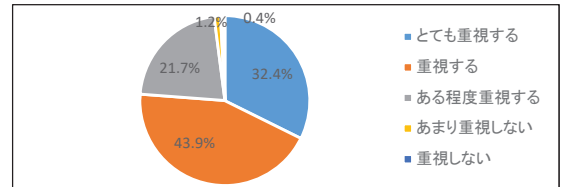
a【知の活用】高度な知識を社会に役立てる能力

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	55	22.5%
2 重視する	110	45.1%
3 ある程度重視する	70	28.7%
4 あまり重視しない	8	3.3%
5 重視しない	0	0.0%
－ 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



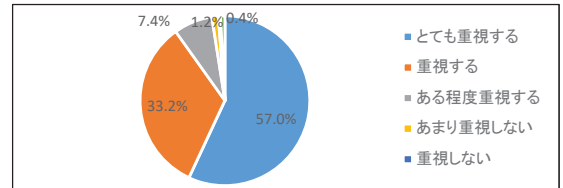
b【マネジメント能力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	79	32.4%
2 重視する	107	43.9%
3 ある程度重視する	53	21.7%
4 あまり重視しない	3	1.2%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



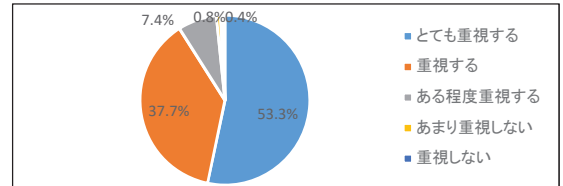
c【コミュニケーション能力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	139	57.0%
2 重視する	81	33.2%
3 ある程度重視する	18	7.4%
4 あまり重視しない	3	1.2%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



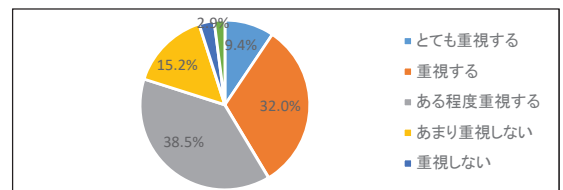
d【チームワーク能力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	130	53.3%
2 重視する	92	37.7%
3 ある程度重視する	18	7.4%
4 あまり重視しない	2	0.8%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



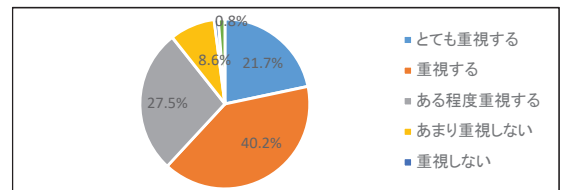
e【国際性】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	23	9.4%
2 重視する	78	32.0%
3 ある程度重視する	94	38.5%
4 あまり重視しない	37	15.2%
5 重視しない	7	2.9%
－ 未回答	5	2.0%
合 計	244	100.0%



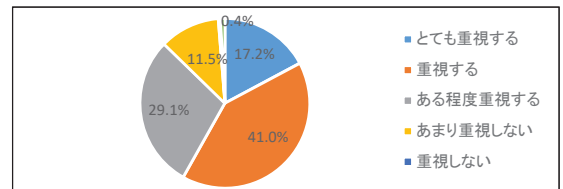
f【研究力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	53	21.7%
2 重視する	98	40.2%
3 ある程度重視する	67	27.5%
4 あまり重視しない	21	8.6%
5 重視しない	2	0.8%
－ 未回答	3	1.2%
合 計	244	100.0%



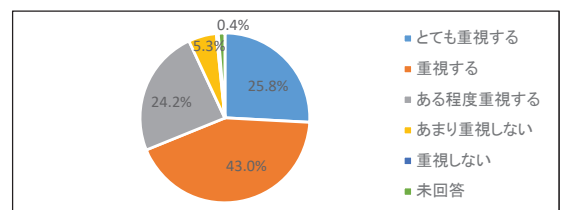
g【専門知識】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	42	17.2%
2 重視する	100	41.0%
3 ある程度重視する	71	29.1%
4 あまり重視しない	28	11.5%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



h【倫理観】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	63	25.8%
2 重視する	105	43.0%
3 ある程度重視する	59	24.2%
4 あまり重視しない	13	5.3%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	3	1.2%
合 計	244	100.0%



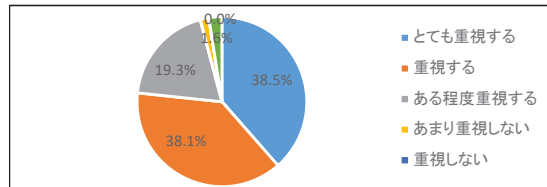
その他

回答	どの程度重視するか
ITリテラシー、自分の専門分野以外の技術動向に対する広い知識と興味	未回答
課題解決力	未回答
挑戦するマインド力	1とても重視する
自身の特性と魅力を自覚し、戦略的に活用できること	1とても重視する
〔人間力〕共感力、許容性、ポジティブ思考など	2重視する
総合的に判断しております。	未回答

<博士>

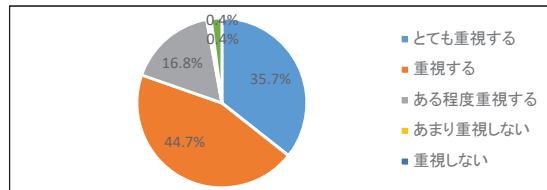
a【知の創成力】未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	94	38.5%
2 重視する	93	38.1%
3 ある程度重視する	47	19.3%
4 あまり重視しない	4	1.6%
5 重視しない	0	0.0%
— 未回答	6	2.5%
合 計	244	100.0%



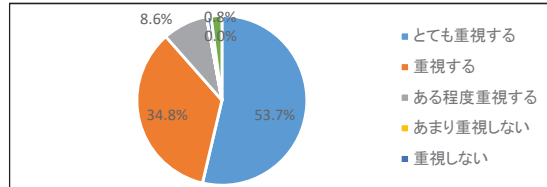
b【マネジメント能力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	87	35.7%
2 重視する	109	44.7%
3 ある程度重視する	41	16.8%
4 あまり重視しない	1	0.4%
5 重視しない	1	0.4%
— 未回答	5	2.0%
合 計	244	100.0%



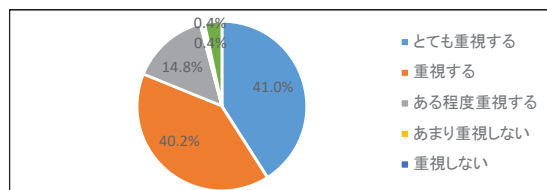
c【コミュニケーション能力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	131	53.7%
2 重視する	85	34.8%
3 ある程度重視する	21	8.6%
4 あまり重視しない	0	0.0%
5 重視しない	2	0.8%
— 未回答	5	2.0%
合 計	244	100.0%



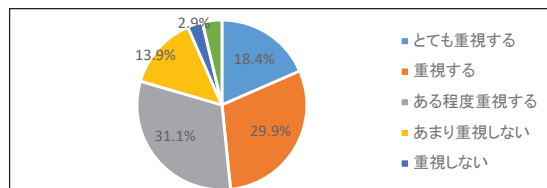
d【リーダーシップ力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	100	41.0%
2 重視する	98	40.2%
3 ある程度重視する	36	14.8%
4 あまり重視しない	1	0.4%
5 重視しない	1	0.4%
— 未回答	8	3.3%
合 計	244	100.0%



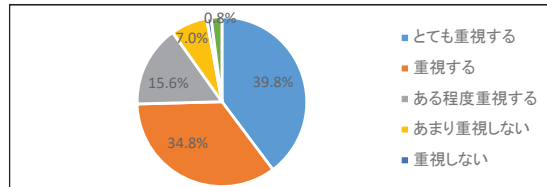
e【国際性】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	45	18.4%
2 重視する	73	29.9%
3 ある程度重視する	76	31.1%
4 あまり重視しない	34	13.9%
5 重視しない	7	2.9%
— 未回答	9	3.7%
合 計	244	100.0%



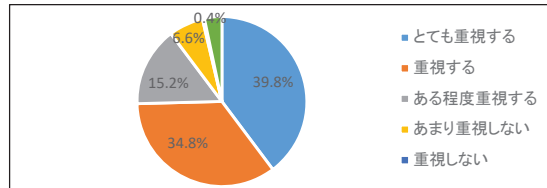
f【研究力】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	97	39.8%
2 重視する	85	34.8%
3 ある程度重視する	38	15.6%
4 あまり重視しない	17	7.0%
5 重視しない	2	0.8%
— 未回答	5	2.0%
合 計	244	100.0%



g【専門知識】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	97	39.8%
2 重視する	85	34.8%
3 ある程度重視する	37	15.2%
4 あまり重視しない	16	6.6%
5 重視しない	1	0.4%
— 未回答	8	3.3%
合 計	244	100.0%



h【倫理観】

選択肢	回答数	割合
1 とても重視する	78	32.0%
2 重視する	105	43.0%
3 ある程度重視する	47	19.3%
4 あまり重視しない	8	3.3%
5 重視しない	1	0.4%
－ 未回答	5	2.0%
合 計	244	100.0%

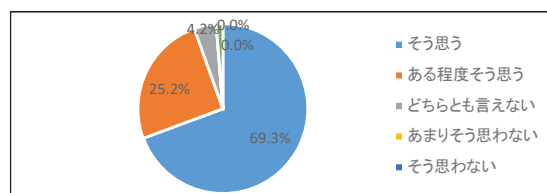
その他

回答	どの程度重視するか
〔人間力〕共感力、利他の心	2 重視する
自身の特性と魅力を自覚し、戦略的に活用できること	1 とても重視する
ITリテラシー、自分の専門分野以外の技術動向に対する広い知識と興味	未回答
テーマ創出力	未回答
総合的に判断しております。	未回答

問7：2020年からの本学大学院の新しい教育システムによる修了生に社会での活躍を期待しますか。

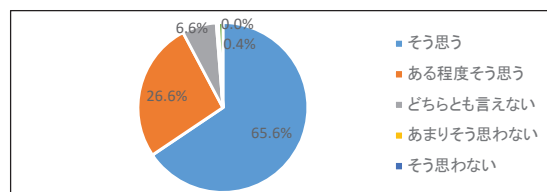
修士

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	169	69.3%
2 ある程度そう思う	62	25.2%
3 どちらとも言えない	10	4.2%
4 あまりそう思わない	0	0.0%
5 そう思わない	0	0.0%
－ 未回答	3	1.3%
合 計	244	100.0%



博士

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	160	65.6%
2 ある程度そう思う	65	26.6%
3 どちらとも言えない	16	6.6%
4 あまりそう思わない	1	0.4%
5 そう思わない	0	0.0%
－ 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



問8：問7で「4 あまりそう思わない」「5 そう思わない」と回答された場合、その理由を教えてください。

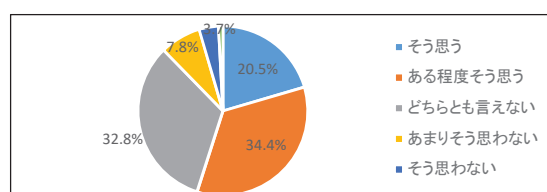
- ・新しい教育システムということではなく、博士は専門性が高く、マッチングが極めて難しい。
- ・研究の場で活躍したほうが、広い視点でいえば、社会に貢献できると考えるため。

問9：2020年度に設置予定の次の各研究機関において養成する人物像は、貴社が求める人材像に適應すると思われますか。

【人文社会ビジネス科学研究群】

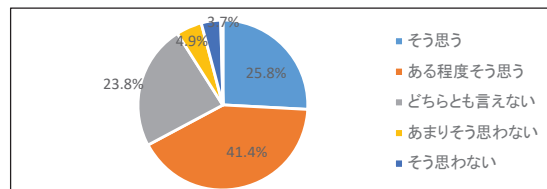
人文社会科学研究類

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	50	20.5%
2 ある程度そう思う	84	34.4%
3 どちらとも言えない	80	32.8%
4 あまりそう思わない	19	7.8%
5 そう思わない	9	3.7%
－ 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



ビジネス科学研究類

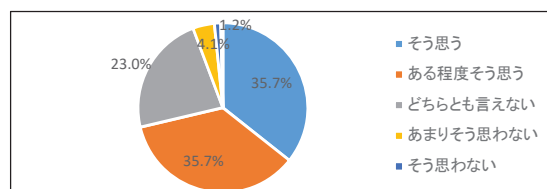
選択肢	回答数	割合
1 そう思う	63	25.8%
2 ある程度そう思う	101	41.4%
3 どちらとも言えない	58	23.8%
4 あまりそう思わない	12	4.9%
5 そう思わない	9	3.7%
－ 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



【理工情報生命研究群】

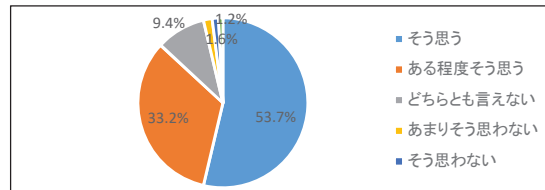
数理物質科学研究類

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	87	35.7%
2 ある程度そう思う	87	35.7%
3 どちらとも言えない	56	23.0%
4 あまりそう思わない	10	4.1%
5 そう思わない	3	1.2%
－ 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



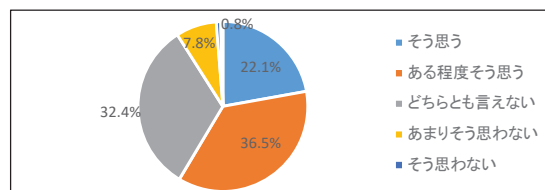
システム情報工学研究類

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	131	53.7%
2 ある程度そう思う	81	33.2%
3 どちらとも言えない	23	9.4%
4 あまりそう思わない	4	1.6%
5 そう思わない	3	1.2%
— 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



生命地球科学工学研究類

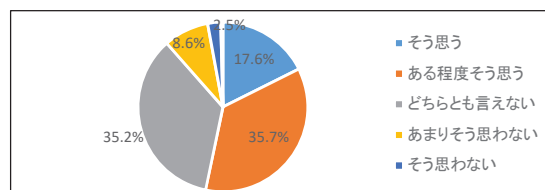
選択肢	回答数	割合
1 そう思う	54	22.1%
2 ある程度そう思う	89	36.5%
3 どちらとも言えない	79	32.4%
4 あまりそう思わない	19	7.8%
5 そう思わない	2	0.8%
— 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



【人間総合科学研究群】

人間総合科学研究類

選択肢	回答数	割合
1 そう思う	43	17.6%
2 ある程度そう思う	87	35.7%
3 どちらとも言えない	86	35.2%
4 あまりそう思わない	21	8.6%
5 そう思わない	6	2.5%
— 未回答	1	0.4%
合 計	244	100.0%



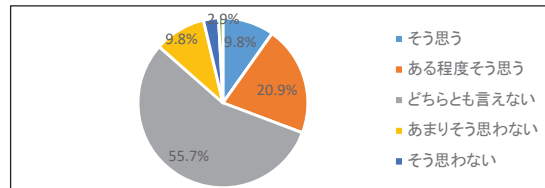
Ⅲ 社会人の大学院入学についてお伺いします。

問10：社会人の大学院入学について

【問10-1】

今後、貴社の社員の方を本学大学院に派遣して学位を取得させたいと思いますか。

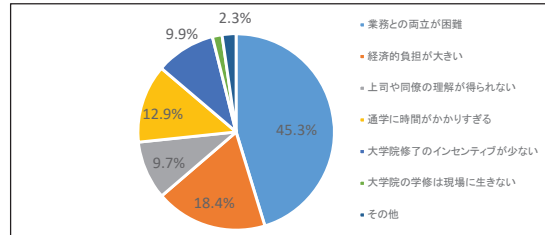
選択肢	回答数	割合
1 そう思う	24	9.8%
2 ある程度そう思う	51	20.9%
3 どちらとも言えない	136	55.7%
4 あまりそう思わない	24	9.8%
5 そう思わない	7	2.9%
— 未回答	2	0.8%
合 計	244	100.0%



【問10-1】

社会人の大学院入学に関して障害となることがあれば教えてください。

選択肢	回答数	割合
1 業務との両立が困難	197	45.3%
2 経済的負担が大きい	80	18.4%
3 上司や同僚の理解が得られない	42	9.7%
4 通学に時間がかかりすぎる	56	12.9%
5 大学院修了のインセンティブが少ない	43	9.9%
6 大学院の学修は現場に生かない	7	1.6%
7 その他	10	2.3%
— 未回答	0	0.0%
合 計	435	-



7.その他

- ・造船という分野が、必然的に入学先となりうる大学の幅を狭めている
- ・未来を担う人材の輩出に期待しています
- ・社会人として働中において、新たな学びを求めて大学での履修を希望する社員が出てくることは当然なことだと思います。
個人的には1科目単位で履修できる社会人講座の充実や通信制で学べる体制が整うと嬉しいなと思っています。
しかしながら業務との時間的な両立が困難であろうことが一番のネックになり、実際に大学院に入学するとなると仕事を退職せざるを得ないビジネスマンが圧倒的に多いのではないのでしょうか。
- ・上記、「1. 業務との両立が困難」の中に含まれるかと思いますが、心身共に負担が大きくなるのではないかと考えております。
- ・現在他大学で既に実施している為
- ・すでに大学院修了の社員が多い。
- ・共同研究のように業務との関係が深ければ可ですが、そうでない場合は、就業時間中の大学院通学は、難しいです。
会社と従業員の関係も従来とは異なります。会社費用で通学し他社へ転職といったことも考えられます。
- ・会社として補助制度がないため、個人の負担に頼らざるを得ない。
- ・中小企業出身で卒業された方は上記のような障害をどのように克服したか記載してほしい。

IV 本学大学院の人材育成に関して、ご意見・ご要望・ご感想等がございましたら、お聞かせください。

- ・コーチングスキルの修得も含まれているでしょうか。未だない場合には取り入れてみてはいかがでしょうか。
- ・今回の貴大学の教育改革は先進的かつ未来志向の実学を身につけるために有用なものであると存じます。
その一方で大学における研究という、ある種目的論とは離れた、純粋な研究も非常に重要であると考えており、そうしたランダムな研究成果こそが、社会課題の解決に寄与してきたことは歴史が証明しているところです（失敗や偶発的の所為による発見など）過度に実学主義へとシフトすることなく、上記のような研究活動も同時に推進いただくことを切に願っております。
- ・タイミングと人材がマッチすれば、大学院生のインターンシップを受け入れたいと思います。栃木県の壬生町に事業所（R&Dセンター）がありますので、受け入れ不可能ではないと考えます。
- ・貴学卒の内定者、弊社社員は自身の大学での取組（研究内容等）ややりたいことのビジョンが明確である者が多く、大学での取組が効果があるものと感じております。
今回の新たな取組が効果があるものと感じております。今回の新たな取組により、今後ますますの学生の知識向上や貴学の発展に期待いたします。
- ・新たな取り組みをし、更なる学生様の成長を期待しております。何かございましたらお声がけ下さい。少しでもお役に立てられればと思います。
- ・いつもお世話になっております。貴学の卒業生の皆様はまさに研究に寄りすぎず、アカデミックなところとビジネスにおける実践とをバランスよくお持ちで当社でも大変活躍されております。
社会人の大学院入学については、今後労働時間がさらに短くなるにつれてより魅力的な選択肢となると考えております。また本年もご縁をいただくと嬉しくおもいますので何卒宜しくお願い申し上げます。
- ・末筆ではございますが社会環境の変化に対応しより早く柔軟に人材育成の方針を転換される貴学の大学・大学院に非常に期待しております。また多くの方が様々な場にて活躍される姿をお見かけするのを今後も楽しみにしております。
- ・自身の特性と魅力は、他者と差別化したり、独自の付加価値を高めるために必要な大事な要素です。独自の価値を発揮できそうな分野を特定したり逆に発揮できそうにない分野（業務）を理解しているだけでも、社会に出たあとのスキルマップや目標が立てやすくなると思います。技術・能力・特徴は大切な個性です。決して凡庸化すべきではないと思います。
自身の魅力と特性（周りからの評価を含む）を自覚し、戦略的に活用するためのカリキュラムや取り組みがあると良いのではないのでしょうか？
- ・コミュニケーション能力及びコンプライアンスの意識が高い学生育つ環境にあり、是非貴学の優秀な学生に興味を持ってほしいと思ってます。
- ・現在弊社社員が社会人ドクターを目指し貴大学にて、研究を行っております。満足度は非常に高く、今後も継続したいと考えておりますので宜しくお願いします。
- ・本年度（2019年新卒）の内定者に御校の学生さんがいます。また前職でも御校の学生を採用させていただいたことがあります。皆、目の前の事象を冷静に解像度高く見つめているのが印象的です。社会の中での本質的な課題解決をしていく人材として非常に期待しております。
- ・今回の学位プログラムを中心とした教育システムの移行は、時代のニーズに沿った素晴らしいとり組みだと思います。大いに期待しています。
- ・貴校が目指す人材像に向け、ぶれずに取り組んで頂ければと思います。
- ・学位を取得し、社会に出た後の活躍をするための人材育成は、今後さらに求められるものだと感じております。こうした取り組みを通し、これまで以上に優秀な人材を輩出されることを期待しております。
- ・引き続き、勉学に熱心な学生の輩出をお願い致します。
- ・WEB授業等のオンデマンド配信が多様されるようになれば遠隔地にいる社会人の学位取得希望者の間口が広がるかと思います。
学生に関してはリーダーシップとともにフォローシップも意識して学んでいただくことを希望します。
- ・専門性が高い人材を育てることは、大学院教育において、必要なことと思います。ただ、懸念もあります。「リーダーシップ」なり「現場で問題解決力」などは、修士、博士に限らず、学士にも必要な要素です。学部レベルでそれらの能力をどのように高めるか。ご検討ください。また、専門性などを高めるあまり、大学院の学生で、学問の基礎領域を納めていない方ときおり出会います。社会科学の分野であれば、政治学、経済学、社会学などの基礎分野はないがしろにされるべきではなく、同時に、国際性を高めるためにも、日本はもちろん世界の通史を把握して文化素養に通じている一般教養は必要不可欠です。それらへの対応も、大学院にお願いしたいところです。
- ・説明資料P.8を拝見するに、博士は修士の延長線上にある完全上位互換のように見えますが、博士後期課程のみ貴学に在籍する学生についてはどのように同じ博士の水準を担保されるお考えかお伺いしたく感じました。
- ・複数分野での専門性を有し自ら計画、実行できる人材に期待します。
- ・貴校での学生に対する教育改革、学生を教育するうえで重視する点等送付頂いた資料より読み取れました。今後の採用活動にてご縁があり貴校の学生と面接等でお会いする機会があれば、上記項目について着目しながら会話する次第です。今後とも宜しくお願い致します。
- ・毎年、弊社へ選考を受けに来て頂きありがとうございます。4月にも1名の方とご縁があり入社予定となっております。これからも学生のみなさんへ弊社の魅力を伝えていければと思います。
- ・引き続き質の高い教育を行って頂き、より良い人材の輩出を宜しくお願い申し上げます。
- ・昨年日本経団連が「Society5.0」で示したように、新たな人材の育成や多様性をもった集団の中でのリーダーシップの発揮が、大いに期待されています。貴学のこのような取り組みこそ、既存の枠組みを離れ、これからの社内に必要な人材育成の仕組みになると考えます。大いに期待します。
- ・「学ぶ意欲」をベースとしたチャレンジ精神の涵養に努めていただきたい。
- ・〇〇〇〇〇〇〇〇 株式会社「社会人大学」という理念があります。会社へ属する働き方ではなく、個人のスキルを上げるために弊社があると考えているので社会人が大学院へ通うという人材育成にとっても関心を覚えました。
- ・御校の取組みに期待を込めて、世界の大学と渡り合える学校にしていきたい。
- ・貴校の取り組みによってグローバル化の進む日本、そして世界で第一線で活躍できる人材を養うことが出来ると期待しております。研究の専門力を高めることで変化の激しい社会に対応できる知識を習得し、汎用力の養成を通じて社会に対応できる能力を養えることが出来ると考えます。さらに、学びを通じた自己研鑽で人生をより充実したものであることから貴校の取り組みに強く賛同いたします。当社においても貴校で実施のセミナーへの参加などを通して、貴校の学生の皆様に興味関心を持って頂けるように努めて参りたいと存じます。
- ・様々な分野を学び、幅広い知識、深い人間性、国際感覚を兼ね備えた人材輩出を期待しております。
- ・弊社としても従来と違った高度多様化した学生さんが多く生まれることを願います。

問7と問9のクロス集計： 問9の回答を、問7の課程別の回答と紐づけて集計（社会での活躍を期待し、かつ人材像が適応）

問7の設問：2020年度からの本学大学院の新しい教育システムによる修了生に社会での活躍を期待しますか。【課程別（修士／博士）に回答】

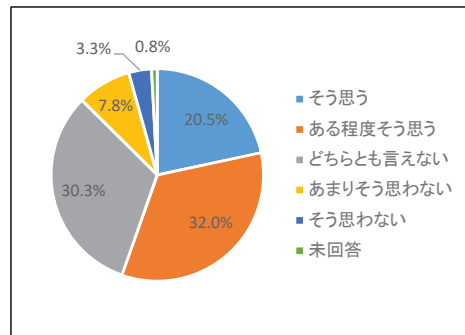
問9の設問：2020年度に設置予定の次の各研究類において養成する人材像は、貴社が求める人材像に適応すると思われますか。【課程を分けて回答】

【人文社会ビジネス科学研究群】

人文社会科学研究類

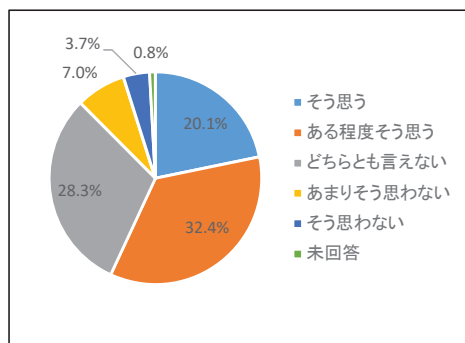
<修士>

問7回答	問9回答						合計
	1 そう思う	2 ある程度 そう思う	3 どちらとも 言えない	4 あまりそう 思わない	5 そう思わ ない	－ 未回答	
1 そう思う	49	54	46	12	6	2	169
2 ある程度そう思う	1	24	28	7	2	0	62
3 どちらとも言えない	0	4	6	0	0	0	10
4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
－ 未回答	0	2	0	0	1	0	3
合 計	50	84	80	19	9	2	244
問7回答1,2のみ抽出	50	78	74	19	8	2	231
全回答数に対する割合	20.5%	32.0%	30.3%	7.8%	3.3%	0.8%	94.7%



<博士>

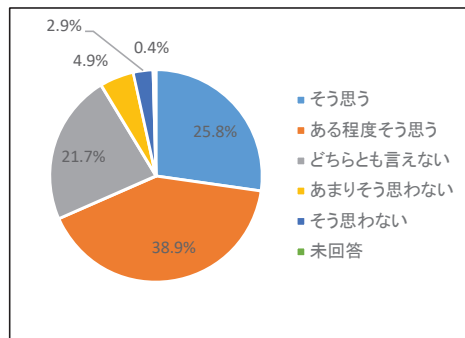
問7回答	問9回答						合計
	1 そう思う	2 ある程度 そう思う	3 どちらとも 言えない	4 あまりそう 思わない	5 そう思わ ない	－ 未回答	
1 そう思う	48	53	39	10	8	2	160
2 ある程度そう思う	1	26	30	7	1	0	65
3 どちらとも言えない	1	4	10	1	0	0	16
4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	1
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
－ 未回答	0	1	0	1	0	0	2
合 計	50	84	80	19	9	0	244
問7回答1,2のみ抽出	49	79	69	17	9	2	225
全回答数に対する割合	20.1%	32.4%	28.3%	7.0%	3.7%	0.8%	92.2%



ビジネス科学研究類

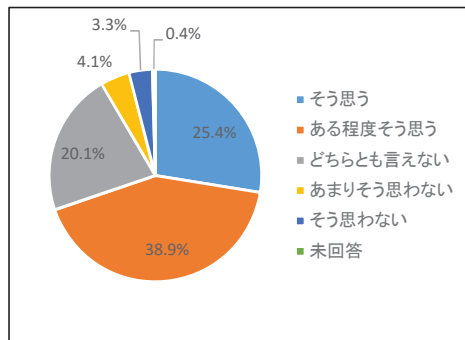
<修士>

問7回答	問9回答						合計
	1 そう思う	2 ある程度 そう思う	3 どちらとも 言えない	4 あまりそう 思わない	5 そう思わ ない	－ 未回答	
1 そう思う	59	63	34	7	5	1	169
2 ある程度そう思う	4	32	19	5	2	0	62
3 どちらとも言えない	0	4	5	0	1	0	10
4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
－ 未回答	0	2	0	0	1	0	3
合 計	63	101	58	12	9	0	244
問7回答1,2のみ抽出	63	95	53	12	7	1	231
全回答数に対する割合	25.8%	38.9%	21.7%	4.9%	2.9%	0.4%	94.7%



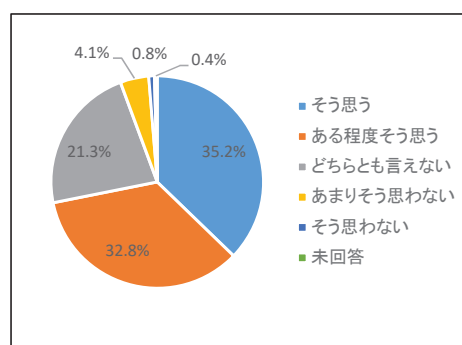
<博士>

問7回答	問9回答						合計
	1 そう思う	2 ある程度 そう思う	3 どちらとも 言えない	4 あまりそう 思わない	5 そう思わ ない	－ 未回答	
1 そう思う	57	60	30	5	7	1	160
2 ある程度そう思う	5	35	19	5	1	0	65
3 どちらとも言えない	1	5	8	1	1	0	16
4 あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	1
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
－ 未回答	0	1	0	1	0	0	2
合 計	63	101	58	12	9	0	244
問7回答1,2のみ抽出	62	95	49	10	8	1	225
全回答数に対する割合	25.4%	38.9%	20.1%	4.1%	3.3%	0.4%	92.2%



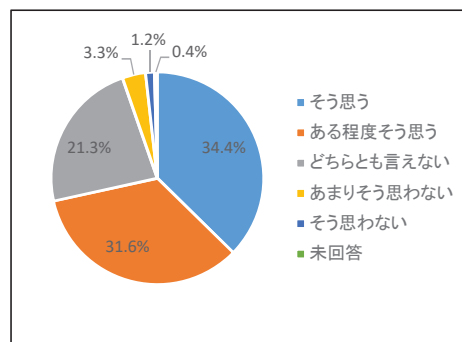
<修士>

問 7 回答	問 9 回答						合計
	1	2	3	4	5	—	
	そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1 そう思う	71	56	36	3	2	1	169
2 ある程度そう思う	15	24	16	7	0	0	62
3 どちらとも言えない	1	4	4	0	1	0	10
4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
— 未回答	0	3	0	0	0	0	3
合 計	87	87	56	10	3	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出	86	80	52	10	2	1	231
全回答数に対する割合	35.2%	32.8%	21.3%	4.1%	0.8%	0.4%	94.7%



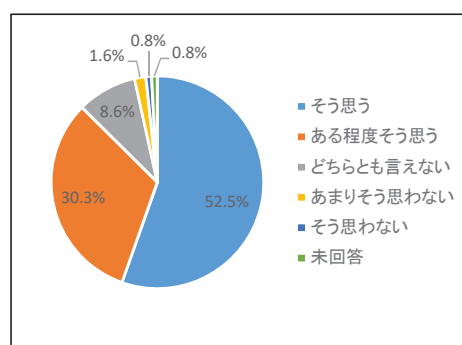
<博士>

問 7 回答	問 9 回答						合計
	1	2	3	4	5	—	
	そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1 そう思う	67	53	35	2	2	1	160
2 ある程度そう思う	17	24	17	6	1	0	65
3 どちらとも言えない	2	8	4	2	0	0	16
4 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	1
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
— 未回答	1	1	0	0	0	0	2
合 計	87	87	56	10	3	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出	84	77	52	8	3	1	225
全回答数に対する割合	34.4%	31.6%	21.3%	3.3%	1.2%	0.4%	92.2%



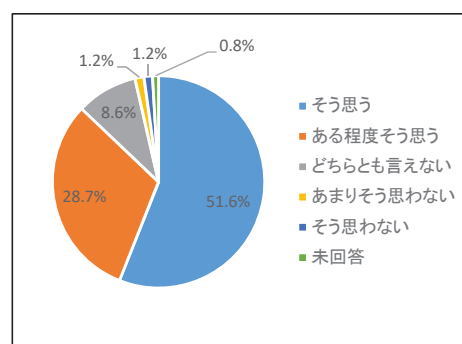
<修士>

問 7 回答	問 9 回答						合計
	1	2	3	4	5	—	
	そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1 そう思う	103	46	13	3	2	2	169
2 ある程度そう思う	25	28	8	1	0	0	62
3 どちらとも言えない	2	5	2	0	1	0	10
4 あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
— 未回答	1	2	0	0	0	0	3
合 計	131	81	23	4	3	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出	128	74	21	4	2	2	231
全回答数に対する割合	52.5%	30.3%	8.6%	1.6%	0.8%	0.8%	94.7%



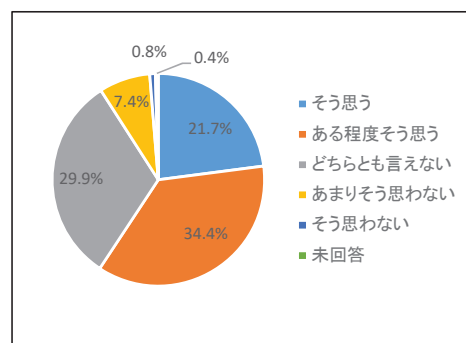
<博士>

問 7 回答	問 9 回答						合計
	1	2	3	4	5	—	
	そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1 そう思う	95	45	13	3	2	2	160
2 ある程度そう思う	31	25	8	0	1	0	65
3 どちらとも言えない	4	9	2	1	0	0	16
4 あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	1
5 そう思わない	0	0	0	0	0	0	1
— 未回答	1	1	0	0	0	0	2
合 計	131	81	23	4	3	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出	126	70	21	3	3	2	225
全回答数に対する割合	51.6%	28.7%	8.6%	1.2%	1.2%	0.8%	92.2%



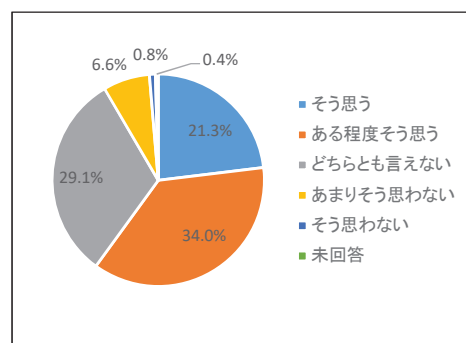
<修士>

問 7 回答		問 9 回答						合計
		1	2	3	4	5	—	
		そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1	そう思う	46	60	52	9	1	1	169
2	ある程度そう思う	7	24	21	9	1	0	62
3	どちらとも言えない	0	3	6	1	0	0	10
4	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5	そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
—	未回答	1	2	0	0	0	0	3
合 計		54	89	79	19	2	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出		53	84	73	18	2	1	231
全回答数に対する割合		21.7%	34.4%	29.9%	7.4%	0.8%	0.4%	94.7%



<博士>

問 7 回答		問 9 回答						合計
		1	2	3	4	5	—	
		そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1	そう思う	44	56	48	9	2	1	160
2	ある程度そう思う	8	27	23	7	0	0	65
3	どちらとも言えない	1	4	8	3	0	0	16
4	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	1
5	そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
—	未回答	1	1	0	0	0	0	2
合 計		54	89	79	19	2	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出		52	83	71	16	2	1	225
全回答数に対する割合		21.3%	34.0%	29.1%	6.6%	0.8%	0.4%	92.2%

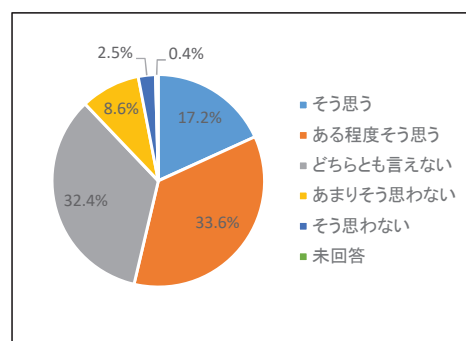


【人間総合科学研究群】

人間総合科学研究類

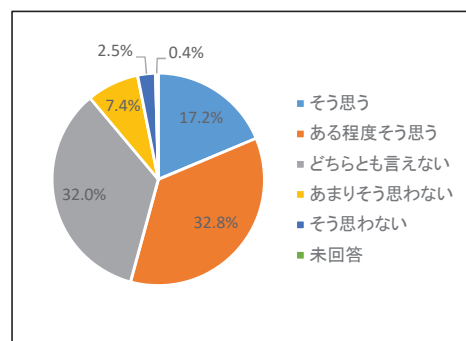
<修士>

問 7 回答		問 9 回答						合計
		1	2	3	4	5	—	
		そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1	そう思う	40	57	53	14	4	1	169
2	ある程度そう思う	2	25	26	7	2	0	62
3	どちらとも言えない	1	2	7	0	0	0	10
4	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
5	そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
—	未回答	0	3	0	0	0	0	3
合 計		43	87	86	21	6	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出		42	82	79	21	6	1	231
全回答数に対する割合		17.2%	33.6%	32.4%	8.6%	2.5%	0.4%	94.7%



<博士>

問 7 回答		問 9 回答						合計
		1	2	3	4	5	—	
		そう思う	ある程度 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	未回答	
1	そう思う	39	58	45	12	5	1	160
2	ある程度そう思う	3	22	33	6	1	0	65
3	どちらとも言えない	1	6	7	2	0	0	16
4	あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	1
5	そう思わない	0	0	0	0	0	0	0
—	未回答	0	1	0	1	0	0	2
合 計		43	87	86	21	6	0	244
問 7 回答1,2のみ抽出		42	80	78	18	6	1	225
全回答数に対する割合		17.2%	32.8%	32.0%	7.4%	2.5%	0.4%	92.2%



筑波大学大学院の教育改革に関するアンケートへのご協力をお願い

企業の人事・採用ご担当者様

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

筑波大学では、大学院における人材養成機能の一層の充実・強化のために、現在の研究科・専攻を全面的に改組再編し、「研究群・研究類」（仮称）という新しい教育組織を設置して、その下で学位プログラムを運営する先進的な教育システムを構想し、実現に向けて準備を進めております。

学位プログラムは、多様化する社会の要請に的確に対応した人材養成目的を設定し、学生が身につけるべき能力を明確にした上で、その達成のために様々な研究分野の教員が現在の研究科・専攻の枠を越えて柔軟に協働し指導するものです。これを可能とする教育システムを構築するため、今回の改革では、現在の 8 研究科・85 専攻からなる縦割りの組織構造を廃し、近接分野を包含した 3 研究群・6 研究類を設置します。詳細については、別添の資料をご一読いただけますと幸いです。

こうした本学大学院の教育改革に関しまして、企業の皆様のご意見をお聞かせいただき、今後の貴重な資料とさせていただきます。アンケート調査を実施することといたしました。ご多用の折、誠に恐縮ではございますが、本アンケートにご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

本アンケート調査結果は、本学大学院の教育改革の検討資料、及び「研究群・研究類」設置手続のために文部科学省に提出する書類作成に係るデータとして利用させていただく予定です。ご回答はすべて統計的に処理し、目的外に使用することはありません。また、ご回答者が特定されることはありません。

ご回答いただきましたアンケート用紙（本紙）につきましては、平成 31 年 2 月 1 日（金）までに別添の返信用封筒によりご投函くださいますようお願いいたします。（又は、同日までに、別紙にてご案内しております Web サイトからご回答くださいますようお願いいたします。）

企業各社におかれましては、急激に変化する社会の中で、将来を見据え、常に変革と創造に挑戦されていることと思います。本学は、大学においても同様の挑戦が不可欠と考えており、今回の改革もそのような認識の下で全学を挙げて取り組んでいるところです。

末筆ではございますが、貴社の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

平成 31 年 1 月

筑波大学副学長（教育担当） 清水 諭

I 貴社の概要について教えてください。

問 1 貴社の属する業種について、次の中から該当するものを○で囲んでください。（主たるものをひとつ）

- | | | |
|----------------------|-------------------|-----------------------|
| 1. 農業、林業 | 2. 漁業 | 3. 鉱業、採石業、砂利採取業 |
| 4. 建設業 | 5. 製造業 | 6. 電気・ガス・熱供給・水道業 |
| 7. 情報通信業 | 8. 運輸業、郵便業 | 9. 卸売業、小売業 |
| 10. 金融業、保険業 | 11. 不動産業、物品賃貸業 | 12. 学術研究、専門・技術サービス業 |
| 13. 宿泊業、飲食サービス業 | 14. 生活関連サービス業、娯楽業 | 15. 教育、学習支援業 |
| 16. 医療、福祉 | 17. 複合サービス事業 | 19. サービス業（他に分類されないもの） |
| 19. 公務（他に分類されるものを除く） | 20. 上記以外（ ） | |

※上記の分類は、日本標準産業分類（総務省）による分類です。

問 2 貴社の従業員数について、該当するものを○で囲んでください。

- | | | |
|------------------|--------------------|--------------------|
| 1. 50 人未満 | 2. 50～100 人未満 | 3. 100～300 人未満 |
| 4. 300～1,000 人未満 | 5. 1,000～2,000 人未満 | 6. 2,000～5,000 人未満 |
| 7. 5,000 人以上 | | |

II 本学大学院の改革構想に関してご意見をお伺いします。

問3 高度化・多様化する社会や学生のニーズに的確に対応していくために、幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムを担当することができる柔軟な教育システムへの移行について【説明資料：3 p, 5～7 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料3 p, 5～7 pをご一読ください。

本学では、高度化・多様化する人材養成のニーズに的確に対応していくために、現在の8研究科・85専攻を全面的に改組再編して3研究群・6研究類を新設し、その下で、修得する知識・能力を明確にした学位プログラムを運営する、新しい教育システムを構築します。

急激に変化し複雑な課題を抱える現在の社会において、細分化した領域に所属する教員が学生を指導する従来型の教育システムでは、多様化する人材養成のニーズに対応することが困難になってきています。

このため本学では、現在の研究科・専攻から、幅広い学問分野の教員が協働して学位プログラムを担当することができる柔軟な教育システムに移行します。これにより、各学位プログラムにおいて養成する人材像にふさわしい体系的なカリキュラム編成と最適な教員配置がなされ、社会や学生の期待に応える人材養成機能が充実します。

この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

問4 本学大学院生が共通に修得すべき汎用的能力の明確化について【説明資料：8 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料8 pをご一読ください。

新しい教育システムでは、学生が修得すべき知識・能力を一層明確化し、その修得に向けた体系的なカリキュラムを編成します。その際、修士又は博士の学位にふさわしい高度な専門的知識・能力と高い倫理的意識の涵養とともに、社会の多様な場で活躍することのできる汎用的能力の獲得を目指します。

この汎用力は、本学が長年実施してきた企業関係者や卒業生等へのアンケート、産業界からの提言等を踏まえて、学位レベル（修士・博士）に応じて各5項目（①知の活用力／知の創成力、②マネジメント能力、③コミュニケーション能力、④チームワーク力／リーダーシップ力、⑤国際性）を設定します。

設定した汎用力、そして専門的知識や研究能力などの専門力は、それぞれ対応する科目・活動、評価の観点、評価の方法が明示され、自己の達成度評価が行われます。

これにより、変化の激しい社会において、学生が生涯にわたる活躍を支える力を涵養することを可能にします。

この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

問5 研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成について【説明資料：9 p】

<構想概略> ※詳細については、説明資料9 pをご一読ください。

大学院教育には、研究・教育機関に限らず社会の多様な場でリーダーシップを発揮する高度な人材を輩出していくことが、これまで以上に求められています。こうした社会的要請を踏まえて、本学では、新しい教育システムの構築や汎用的能力の育成に取り組み、社会の多様な場で活躍できる人材を養成する機能の強化を図っています。

それらの取組と同時に、修士又は博士にふさわしい研究能力に加え、特に、社会における現実の具体的課題に即した「現場力」の養成を重視した学位プログラムが授与する学位を「専門学位」として位置づけます。これにより、それらの課題解決に向けて、学問分野を越えて協働し産官学の多様な場で実践的に活躍できる、研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成を推進します。

このような人材養成の例として、以下のものを構想しています。

- ・ ビジネスの変革、技術の複雑化に伴う新たな経営課題に対応できる人材の養成
- ・ 新たなサービス方法を創造・実践し、結果を科学的に検証できる人材の養成
- ・ 山岳域の諸問題に対して的確な方策を講ずることができる人材の養成
- ・ 革新的医薬品・機能性食品の研究開発分野及びその保全と管理の分野で活躍する人材の養成
- ・ スポーツの国際競争力の向上やスポーツによる健康寿命の延伸に貢献できる人材の養成
- ・ 文化遺産・自然遺産の保護に関してプランニングやマネジメントができる人材の養成 等

※「専門学位」は、社会の課題解決に積極的かつ的確に貢献していくために、本学が独自に設ける学位系統であり、授与する学位（修士・博士）の法令上の位置づけに違いはありません。

【問5－1】この構想について、どのような印象をお持ちになりましたか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
評価できる	ある程度評価できる	どちらとも言えない	あまり評価できない	評価できない

【問5－2】問5－1で「1」「2」と回答された方にお伺いします。上記のような研究能力と「現場力」を兼ね備えた人材の養成について、今後、そのような人材養成が期待される分野がありましたら、具体的にお聞かせください。（自由記述：どのような課題に対してどのように貢献できる人材の養成、など）

問6 大学院修了者が身につけるべき知識・能力について【説明資料：8 p】

本学大学院では、本学が長年実施してきた企業関係者や卒業生アンケート結果の蓄積、産業界からの提言等を踏まえて、大学院修了者（修士／博士）が身につけるべき知識・能力として下記 a～h を重視しています。貴社が社員を採用する場合に、これらをどの程度重視しますか。修士／博士別に該当する番号を一つずつ選んで○で囲んでください。

（1 とても重視する / 2 重視する / 3 ある程度重視する / 4 あまり重視しない / 5 重視しない）

<修士>

a 【知の活用力】 高度な知識を社会に役立てる能力	1・2・3・4・5
b 【マネジメント能力】 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	1・2・3・4・5
c 【コミュニケーション能力】 専門知識を的確に分かりやすく伝える能力	1・2・3・4・5
d 【チームワーク力】 チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	1・2・3・4・5
e 【国際性】 国際社会に貢献する意識	1・2・3・4・5
f 【研究力】 対象分野における研究課題設定と研究計画を遂行するための基礎的な知識と能力	1・2・3・4・5
g 【専門知識】 対象分野における高度な専門知識と運用能力	1・2・3・4・5
h 【倫理観】 対象分野の基礎的研究能力を有する人材または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識	1・2・3・4・5
i その他（ ）	1・2・3・4・5

※ a～h 以外に重視する能力がある場合には、「i その他」の括弧内に具体的に記入してください。

<博士>

a 【知の創成力】 未来の社会に貢献し得る新たな知を創成する能力	1・2・3・4・5
b 【マネジメント能力】 俯瞰的な視野から課題を発見し解決のための方策を計画し実行する能力	1・2・3・4・5
c 【コミュニケーション能力】 学術的成果の本質を積極的かつ分かりやすく伝える能力	1・2・3・4・5
d 【リーダーシップ力】 リーダーシップを発揮して目的を達成する能力	1・2・3・4・5
e 【国際性】 国際的に活動し国際社会に貢献する高い意識と意欲	1・2・3・4・5
f 【研究力】 対象分野における最新の専門知識に基づいて先端的な研究課題を設定し、自立して研究計画を遂行できる能力	1・2・3・4・5
g 【専門知識】 対象分野における先端的かつ高度な専門知識と運用能力	1・2・3・4・5
h 【倫理観】 対象分野の研究者または高度専門職業人にふさわしい倫理観と倫理的知識、および専攻する特定の分野に関する深い倫理的知識	1・2・3・4・5
i その他（ ）	1・2・3・4・5

※ a～h 以外に重視する能力がある場合には、「i その他」の括弧内に具体的に記入してください。

問7 2020年度からの本学大学院の新しい教育システムによる修了生に社会での活躍を期待しますか。修士／博士別に該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

修士	1	2	3	4	5
	そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない
博士	1	2	3	4	5
	そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

問8 問7で「4 あまりそう思わない」または「5 そう思わない」と回答された場合、その理由を教えてください。（自由記述）

問9 2020年度に設置予定の次の各研究類において養成する人材像（説明資料6～7pをご参照ください）は、貴社が求める人材像に適應すると思われますか。各研究類について、該当する番号を選んで○で囲んでください。

（1 そう思う / 2 ある程度そう思う / 3 どちらとも言えない / 4 あまりそう思わない / 5 そう思わない）

人文社会ビジネス科学研究群	人文社会科学研究類	1・2・3・4・5
	ビジネス科学研究類	1・2・3・4・5
理工情報生命研究群	数理物質科学研究類	1・2・3・4・5
	システム情報工学研究類	1・2・3・4・5
	生命地球科学研究類	1・2・3・4・5
人間総合科学研究群	人間総合科学研究類	1・2・3・4・5

Ⅲ 社会人の大学院入学についてお伺いします。

問 10 社会人の大学院入学について【説明資料：10p】

本学大学院では、社会人の学修需要の高まり等を踏まえて、積極的に社会人学生を受け入れたいと考えています。そのために、各教育組織・学位プログラムの目的・特性等に応じて、入学者選抜における社会人特別選抜、昼夜開講制や長期履修制度による柔軟な履修方法、優れた業績を上げた場合には在学期間を短縮できる早期修了制度等を実施しています。また、東京キャンパスにおいては社会人を対象とした主に夜間開講制の大学院を設置して、有職者が学位を取得しやすい学修環境を整備しています（詳細については、説明資料10pをご参照ください）。

【問 10－1】今後、貴社の社員の方を本学大学院に派遣して学位を取得させたいと思いますか。該当するものを一つ選んで番号を○で囲んでください。

1	2	3	4	5
そう思う	ある程度そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない

【問 10－2】社会人の大学院入学に関して、障害となることがあれば教えてください。（複数選択可）

- | | | |
|-------------------|------------------------|-------------------|
| 1. 業務との両立が困難 | 2. 経済的負担が大きい | 3. 上司や同僚の理解が得られない |
| 4. 通学に時間がかかりすぎる | 5. 大学院修了のインセンティブが少ない | |
| 6. 大学院の学修は現場に生かない | 7. その他（以下に具体的にお書きください） | |

IV 本学大学院の人材育成に関して、ご意見・ご要望・ご感想等がございましたらお聞かせください。

*** アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。***

■ 本アンケートに関するお問い合わせ先

〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学 教育推進部 教育機構支援課

TEL：029-853-2236

E-Mail：gm.kyouikukikou@un.tsukuba.ac.jp